

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 5 月 30 日現在

機関番号：34311

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02203

研究課題名(和文) ポストインターネットにおける視聴覚表現の作者性にかんする批判的考察

研究課題名(英文) Critical consideration of authorship in audiovisual expression under the Post-Internet

研究代表者

松谷 容作 (Matsutani, Yosaku)

同志社女子大学・学芸学部・助教

研究者番号：60628478

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではインターネットが人びとの認識や行動に定着した以後、つまりはポストインターネットの状況下での視聴覚表現における作者のあり方について検討した。その研究は1.文献資料調査、2.アート作品の調査、3.アーティストとの対話、4.展覧会の開催、5.成果公表、6.レビューから構成される。ここから明らかになったことは、1.ポストインターネット状況下の視聴覚表現においては、リアリティやアーキテクチャ、計算をめぐる探求があり、また2.作者は表現のうちに潜り込み作品の一部と化し、さらに3.作者は分散型ネットワークのような表現の中に人々を組み込み、始点も終点もない流動的な表現の渦を生み出すことである。

研究成果の概要(英文)：In this research, we examined how authors should be in audio-visual expression under the Post-Internet situation, in which Internet has become established in people's perceptions and behaviors. The research consists of 1. document investigation, 2. research on art works, 3. dialogue with artists, 4. organizing exhibition, 5. publication of achievements, and 6. review. Finally the things are come from this research as follows: 1. In the audio-visual expression under the Post-Internet situation, there is a quest for reality, architecture, and computation, and 2. The author tends to turn it into a part of the work in the expression, 3. The authors tries to incorporate people into their expressions like distributed networks, creating a fluent expressive whirlpool with neither starting nor end point.

研究分野：美学

キーワード：ポストインターネット ポストメディア

1. 研究開始当初の背景

近年、デジタル技術が社会や文化に浸透し、表現活動の根本的な変容が生じている。その技術のひとつであり、もはやオンライン/オフラインの区別が意識の上で無効化した現在のインターネット(ポストインターネット)は表現の場において不可欠な存在となり、従来の表現活動の枠組やその存在自体を揺らがせるものとなっている。

2. 研究の目的

表現活動をめぐる上記の状況の下、「ポストインターネットアート」は、ネットとリアルをフラットな等価なもののみならず、インターネットが一般化した後の表現活動全般を思考し、再規定する批判的な用語となる。本研究は、ポストインターネットとポストインターネットアートを鍵概念とし、全面的に刷新されつつある表現活動における作者に焦点を合わせることで、現在の表現活動を思考する理論的整備を行うとともに、過去の表現活動全般を再考することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、4つのプロジェクト(「ポストインターネットにおける動画像」、「ポストインターネットにおける静止画像」、「ポストインターネットにおけるサウンド」、「現在のネットワークの諸状況」)を設け、(1)各プロジェクトが行う学術文献を中心とした言説分析などの基礎研究、(2)表現活動を視察し考察する事例研究、(3)プロジェクト間の相互交通を整備するフォーラム(展覧会)から構成される。具体的に基礎研究は、(1)国内外における各プロジェクトについての研究動向の調査(文献資料の収集、研究者への直接のインタビューを含む)、(2)文献資料の整理と精査、(3)レビューからなされた。また事例研究は、(1)国内外における各プロジェクトにかかわるアートや表現活動の視察(制作者への聞き取りを含む)、(2)視察の記録と精査、(3)レビューからなされた。最後にフォーラム(展覧会)は公開(フォーラムを組織する意見交換も含めて公開した)で年間1回開催し、その際は国内の研究者を招聘し、意見交換を行い、レビューを受けた。

4. 研究成果

本研究で考察をした表現活動における作者は、Nukeme氏、山城知佳子氏、THE COPY TRAVELERS、伊東宣明氏、真下武久氏、渡邊朋也氏、城一裕氏などであり、また作者と深い関わりをもつキュレーターあるいは研究者である林田新氏、Jung Pil Joo氏、田川りな氏と意見交換を行った。そして秋庭史典氏、砂山太一氏などからレビューを受けた。以上から明らかになったことは、1. ポストインターネット状況下の視聴覚表現においては、リアリティやアーキテクチャ、計算をめぐる探求があり、また2. 作者は表現のうちに潜り込

み作品の一部と化し、さらに3. 作者は分散型ネットワークのような表現の中に人々を組み込み、始点も終点もない流動的な表現の渦を生み出すことである。以上の成果は、リアリティへの探求を主眼とする、従来の国外におけるポストインターネット状況における表現活動あるいはアートに関する議論と距離を取るものであり、新たな視点を提起するものである。また、上記の研究の中で、未だ国内に紹介されていなかったイギリスや北欧を中心としたデザイン実践のコンセプトの1つ「新しい美学」を国内に提案したことも、本研究の成果の1つとなる。このように整理され、従来の研究と比較される本研究の成果は、研究代表者と分担者によって編纂された『Poi featuring Nukeme』Vol. 1と『Poi featuring Tomoya Watanabe』Vol. 2のなかでまとめて発表され、公表された。最後に今後の課題について記すと、本研究の鍵概念であるポストインターネットは、現実的な表現活動を鑑みればやや視野が狭いことは否めない。よって、今後、インターネットを含みこむ、ポストデジタル、テクノロジーと表現という観点に研究を発展化させて行く必要があるだろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 15件)

松谷容作、嗅覚を軸としたインターフェイスとコミュニケーションについての調査研究、総合文化研究所紀要、査読有り、第35巻、2018年7月発行予定、印刷中

水野勝仁、ポストインターネットにおいて、否応無しに重なり合っていく世界、甲南女子大学研究紀要 文学・文化編、査読有り、54巻、2018年、pp. 67-77

増田展大、歪んだ顔写真、または顔認証技術をめぐる試論、エクリマ、査読無し、7巻、2017年、pp. 226-237

松谷容作、環境内存在としてのコンピュータ コンピュータを介した経験の更新についての一考察、総合文化研究所紀要、査読有り、第34巻、2017年、pp. 1-18

水野勝仁、ポストインターネットにおけるディスプレイ、MASSAGE、査読無し、2016年4月8日号、<http://themassage.jp/monotodisplay01/>

秋吉康晴、声の機械化—音響再生産の系譜をめぐる一考察、京都精華大学紀要、査読有り、49巻、2016年、pp. 49-79

松谷容作、アートとコンピューション: 「ポストインターネットアート」と「新たな美学」の観点から、総合文化研究所紀要、査読有り、第35巻、2016年、pp. 1-14

水野勝仁、ポストインターネットにおける3つのデフォルト：OS /イメージ・オブジェクト/オンラインギャラリー、「TOKYO」—見えない都市を見せる、査読無し、1995年、pp. 96-101
平面を走ること—『時をかける少女』の影をめぐって、ユリイカ、査読無し、第47巻12号、2015年、pp. 193-200

〔学会発表〕(計 8件)

秋吉康晴、レコードの考古学—フォノグラフ、あるいは「音を書くこと」の含意について、日本ポピュラー音楽学会、2016年
水野勝仁、GUIの歪み、日本映像学会中部支部、2016年
松谷容作、Art in Japan Since 2010's: Consideration in Terms of Computation and 'New Aesthetics'、20th International Congress of Aesthetics、2016年
増田展大、生命科学をめぐるメディア論的考察—バイオアートを事例として、美学会、2015年
水野勝仁、テクスチャを透してモデルを見てみると：ポストインターネットにおける2D-3D、日本映像学会、2015年

〔図書〕(計 3件)

神田孝治・遠藤英樹・松本健太郎 編『ポケモンGOからの問い 拡張される世界のリアリティ』所収、増田展大「現実はいかにして拡張されたのか 写真、GPS、ナビゲーション」、2018年、2018年、250p

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等(計 2件)

「いつか音楽と呼ばれるもの」のその後—

作品、作家性、聴衆—

<https://www.youtube.com/watch?v=5RHoGwww3J8>

「いつか音楽と呼ばれるもの」のその後—
作品、作家性、聴衆—

<https://www.youtube.com/watch?v=zas4cjldT2w&t=1948s>

・講演(計 12件)

水野勝仁、ハロー・ワールド ポスト・ヒューマン時代に向けて、水戸芸術館ハロー・ワールド展 トーク・シリーズ、2018年

増田展大、テクノロジーとデザイン、京都精華大学デザイン学部レクチャーシリーズ「デザインの可能性」、2018年

松谷容作、メディアへの態度—THE COPY TRAVELERS を例として、「Visualquest 234」展(大韓民国、ソウル特別市)シンポジウム、2017年

松谷容作、バイオ・アートからみるアートとデザイン—三原聡一郎《空白のプロジェクト#3-大宇宙の片隅》(2013-2016)を例として、京都精華大学大学院特別講義「呼吸する ART&DESIGN vol.3.2」、2016年

松谷容作、ポストメディア状況のアートの営み、暨南大学国際学術研討会「全球化時代の日語教育・日本学研究」「グローバル化時代に求められる日本語教育・日本学研究」、2015年

・成果冊子(計 2件)

松谷容作責任編集、秋吉康晴、田川莉那、増田展大、水野勝仁編集『Poi featuring Nukeme』、Vol. 1、2016年

松谷容作責任編集、秋吉康晴、田川莉那、増田展大、水野勝仁編集『Poi featuring Tomoya Watanabe』、Vol. 2、2017年

・展覧会企画・開催(計 2件)

松谷容作、秋吉康晴、田川莉那、増田展大、水野勝仁企画、Nukeme「Old School」展、同志社女子大学 msc ギャラリー、2015年11月30日~12月21日

松谷容作、増田展大企画協力、渡邊朋也個展「信頼と実績」、ARTZONE、2017年1月7日~1月29日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松谷 容作 (Matsutani, Yosaku)
同志社女子大学・学芸学部・助教
研究者番号：60628478

(2) 研究分担者

水野 勝仁 (Mizuno, Masanori)
甲南女子大学・文学部・講師
研究者番号：30626495

秋吉 康晴 (Akiyoshi, Yasuharu)
京都精華大学・ポピュラーカルチャー学
部・非常勤講師
研究者番号：10751802

増田 展大 (Masuda, Nobuhiro)
立命館大学・先端総合学術研究科・非常勤
講師
研究者番号：70726364

(3)連携研究者
()

研究者番号：

(4)研究協力者
()